

授業科目 障害の評価と義肢装具演習

| 【担当教員名】 | | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 義肢 |
|--|------------------------------------|---|-------|-----------|----------------------|
| 坂井 一 浩 他 | | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 必修 |
| | | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 |
| 【概要・一般目標：G10】 義肢装具士に求められる実践的な能力を身につけるために、仮想症例を題材とした授業における能動的な学習を通して、コミュニケーション能力・論理的思考力・問題特定と解決能力を養う。 | | | | | |
| 【学習目標・行動目標：SB0】 1. 対象者を包括的に捉えることができる。 2. 専門職としてのアプローチに必要な情報を特定できる。 3. 対象者の抱える問題を特定でき、また専門職としての解決法を論理的に提案できる。 4. 対象者および他者の話を聞き、対象者に対し最良のサービスを提供するための建設的な思考ができる。 | | | | | |
| 回数 | 授業計画・学習の主題 | | | SB0 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
| 1 | オリエンテーション：本科目のG10とSB0s, 進行, 成績評価など | | | | 坂井 |
| 2 | 仮想症例1『単純な問題を抱えたケース』 | | | 1～4 | 坂井, ほか |
| 3 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 4 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 5 | ・グループ発表 | | | " | 坂井, ほか |
| 6 | 仮想症例2『やや複雑な問題を抱えたケース』 | | | " | 坂井, ほか |
| 7 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 8 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 9 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 10 | ・グループ発表 | | | " | 坂井, ほか |
| 11 | 仮想症例3『極めて複雑な問題を抱えたケース』 | | | " | 坂井, ほか |
| 12 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 13 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 14 | ・グループディスカッション | | | " | 坂井, ほか |
| 15 | ・グループ発表 | | | " | 坂井, ほか |
| 【使用図書】 | | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格 他> |
| 教科書 (必ず購入する書籍) | | | | | |
| 参考書 | | リハビリテーション専門書, 整形外科学関連書, 関係法規関連書, 義肢装具関連書 | | | |
| その他の資料 | | | | | |
| 【評価方法】 学習態度(グループディスカッションへの参加度, 発言度, 貢献度など)を評価する。 | | 【履修上の留意点】 本科目は一般的な講義形式をとらない。学生は、与えられた仮想症例に対し専門職としてとるべき具体的な行動について、グループ内でディスカッションし判断する。したがって、学生は教員から教わるのではなく、自ら考え、必要と思われることを調べ、グループ内で提案し、意見交換をしながら能動的に論理的思考法と知識を身につける。 | | | |